

平成28年度福岡県リサイクル総合研究事業化センター研究成果発表会

食品ロス削減研究会

研究期間 平成26年8月5日～平成28年3月31日

研究会メンバー

研究代表者

フードバンク北九州ライフアゲイン

理事長

原田昌樹

共同研究者

北九州市立大学

三宅教授

松本教授

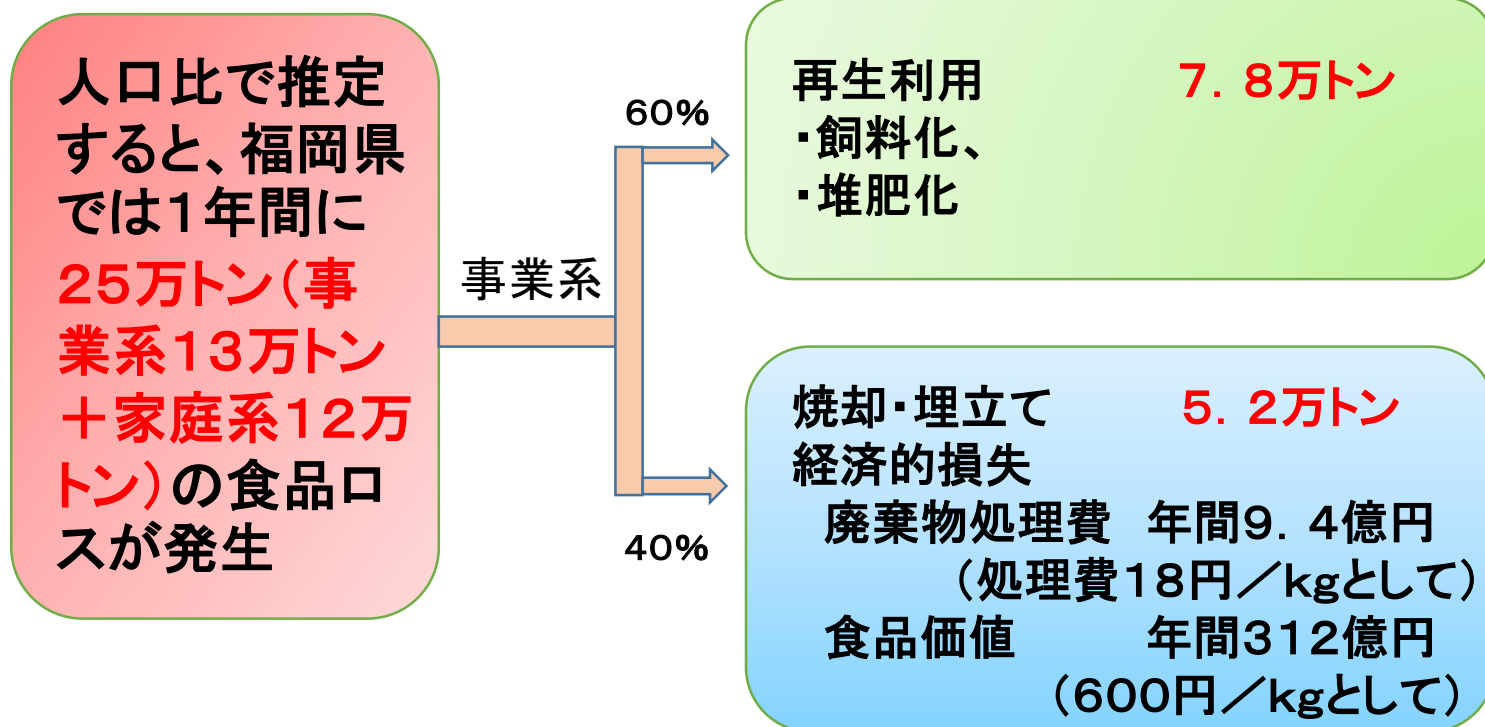
1. 背景・目的

- 日本では、年間1700万トンの食品廃棄物が排出され、このうち、本来食べられるのに廃棄されているもの、いわゆる「食品ロス」は、年間642万トンと推計されている。
- これは、日本のコメの年間収穫量(平成24年約850万トン)に匹敵する量であり、飢餓に苦しむ国への食糧援助量の(平成23年約400万トン)を超える量である。

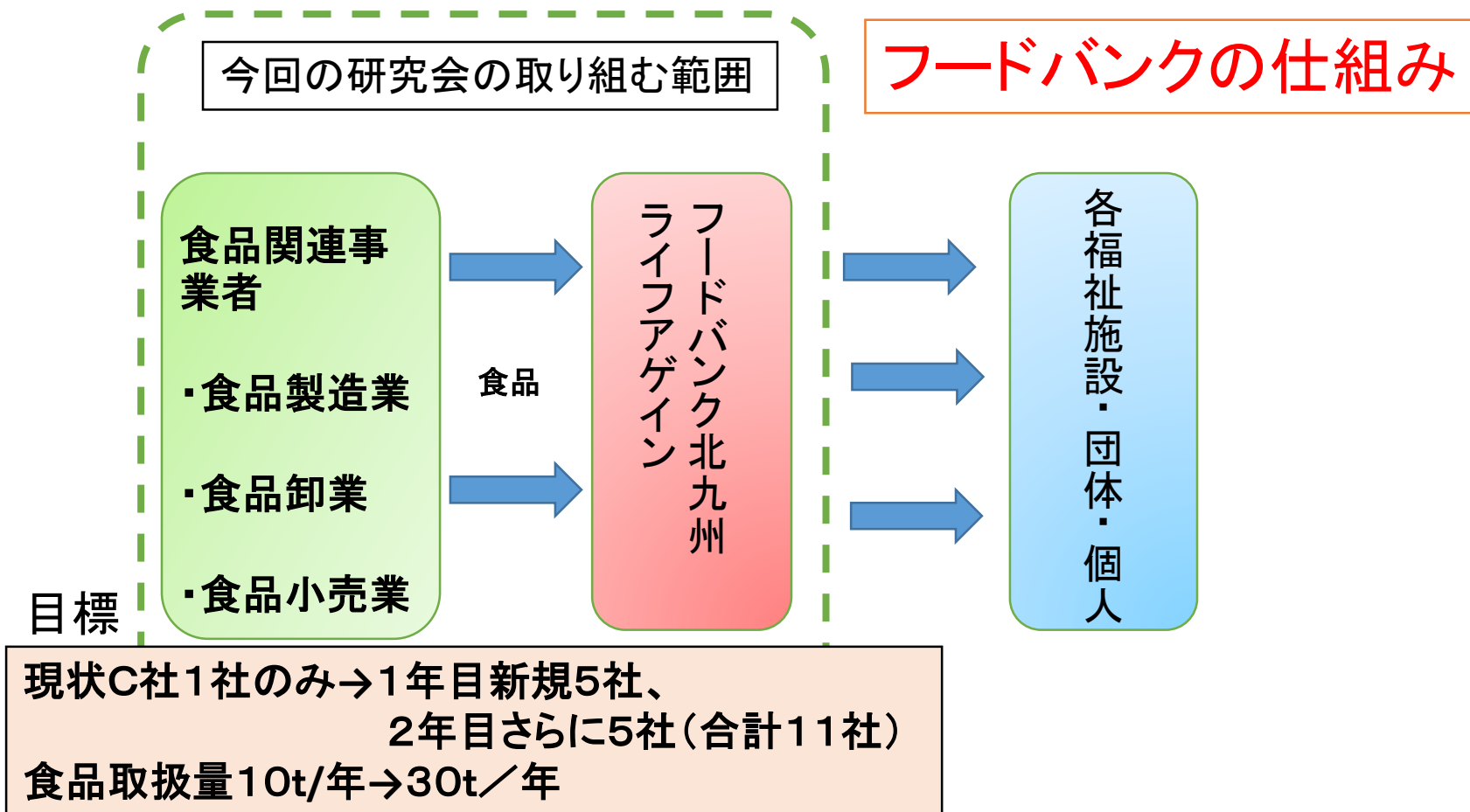


本研究会では、この食品ロスを削減する一つ的手段として、フードバンクの活用を検討し、その効果を見極めるとともに、フードバンク活動の県内全域への普及の可能性について検証することを目的とする。

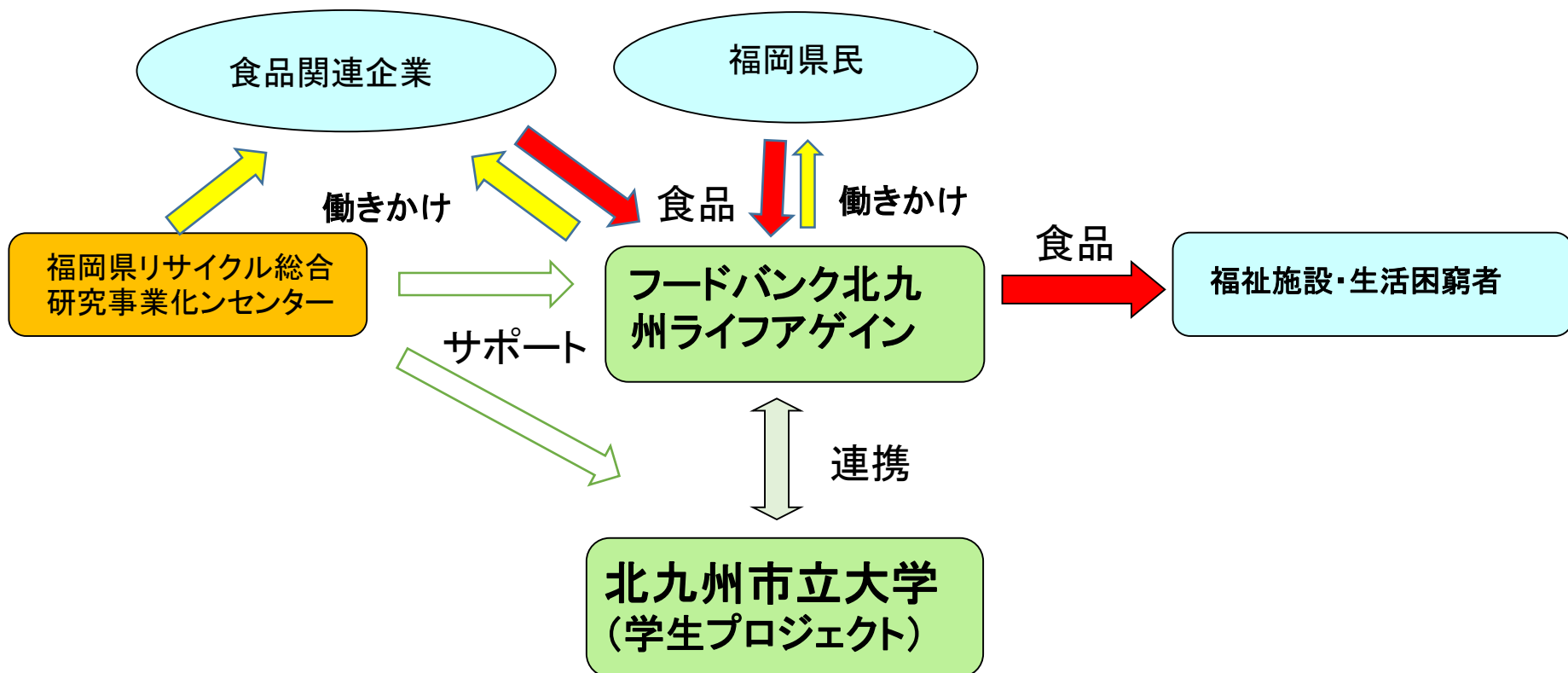
2. 福岡県における食品ロスの現状



3. フードバンクを利用した食品ロス削減



4. 食品ロス削減研究会の構成



5. 検討課題

課題1 食品受入・保管・配送体制の構築

課題2 食品提供企業開拓(アンケートによる実態調査、企業訪問による提供依頼、食品企業との意見交換)

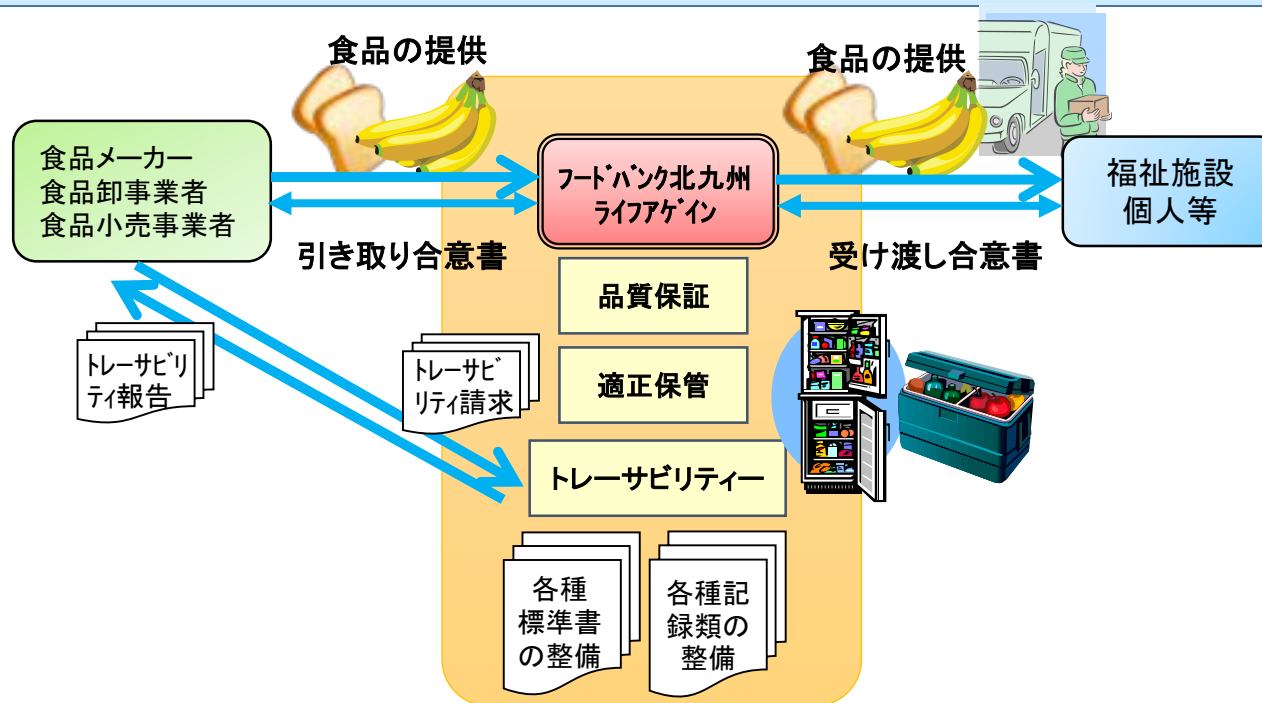
課題3 家庭系食品ロスの回収(フードドライブの実施)

課題4 広報活動の強化(食品ロス削減学生プロジェクトとの連携)

課題5 フードバンク活動の環境、福祉への定量的効果の把握

課題1 食品の安全な取り扱いのために受入、保管、配送体制の構築

- ①品質保証のための書類の整備（合意書、品質管理規定、デリバリー記録、など）
- ②食品の安全な保管体制の構築（保管倉庫の整備、冷蔵ボックスの整備など）
- ③食品のトレーサビリティシステムの確保（トレーサビリティ管理、各種記録書式など）



課題2. 食品企業との意見交換会

日時 平成28年1月29日

参加者 食品企業6社(マルタイ、如水庵、大塚製薬、いなだ豆、九食、緑の農園)
フードバンク北九州、環境部循環進課、リ総研 15名参加

主な意見

- ・恵まれない子、貧困層が増えている中、ぜひ応援させていただきたい。
- ・企業は横並びの発想を持っている。一つの業界や一つの企業の事例を出して、各業界の企業に広めていくのが良いのではないか。



課題4 食品ロス広報活動の推進

2-1 食品ロス削減学生プロジェクトとの連携

第1回目

5/30ごみゼロの日に合わせて、勝山公園にて学生主体の「もったいないけ食べちゃGO」のイベント開催。サイクリングとフードライブのイベントを実施。



第2回目

10/10~11北九州市役所横にてエコライフステージが開催され、学生プロジェクトにより「ゆるキャラによるダンス」を披露。ステージとテントで食品ロス削減をアピール。



第3回目

簡単！お悩み解消キッチン
=主婦のお悩み、食品ロス・手間ロス;時間ロスを一気に解消！



2-2 食品ロス削減シンポジウムの開催

第1回

2014年10月25日ウエル戸畑にて、第1回食品ロス削減シンポジウムを開催。参加者130名 98%の方から良かったとの評価をいただいた。

第2回

2015年10月17日コムシティ子どもの館にて、第2回食品ロス削減シンポジウムを開催。参加者130名、アンケートの結果99%の方から良かったとの評価をいただきました。



北橋市長のあいさつ



会場の様子

参加費 無料

ぼくたち、まだ食べられるよ

2015 10/17 14:00-17:00 (開場 13:30)

当シンポジウムは世界食料デーに合わせて開催されています
WORLD FOOD DAY 2015 IS THE INTERNATIONAL DAY OF RURAL DEVELOPMENT

フードバンク北九州ライフアゲイン 1周年記念大会
食品ロス削減シンポジウム

〒804-0031 福岡県北九州市戸畑区戸畑 2-15-9
COMCITY 7F 子どもの館

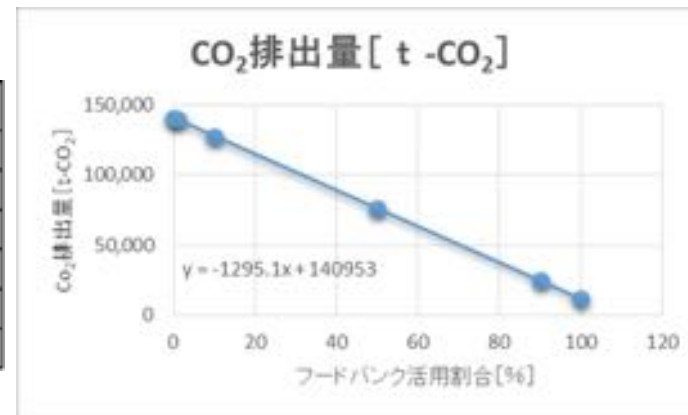
14:00 ~ 14:10 主催者あいさつ
14:10 ~ 14:40 「世界における子供の飢餓」
14:40 ~ 15:30 「みんなで減らそう食品ロス」
15:30 ~ 15:45 「食品イベントと食品ロス」
15:45 ~ 16:30 「豊けてと豊える社会へ」
16:30 ~ 17:00 「食品ロスを人に役立てる循環社会へ」

TEL 093-672-5347
FAX 093-671-2393

課題5 フードバンク活用による環境・福祉に及ぼす定量的評価

5-1 環境影響評価(CO₂の削減効果)

フードバンク活用率[%]	CO ₂ 排出量[t-CO ₂]
0	140,953
1	139,658
10	128,002
50	76,200
90	24,398
100	11,447



食品ロス1%削減→約1295トンCO₂を削減

食品ロス1トン削減→約1.4トンのCO₂を削減

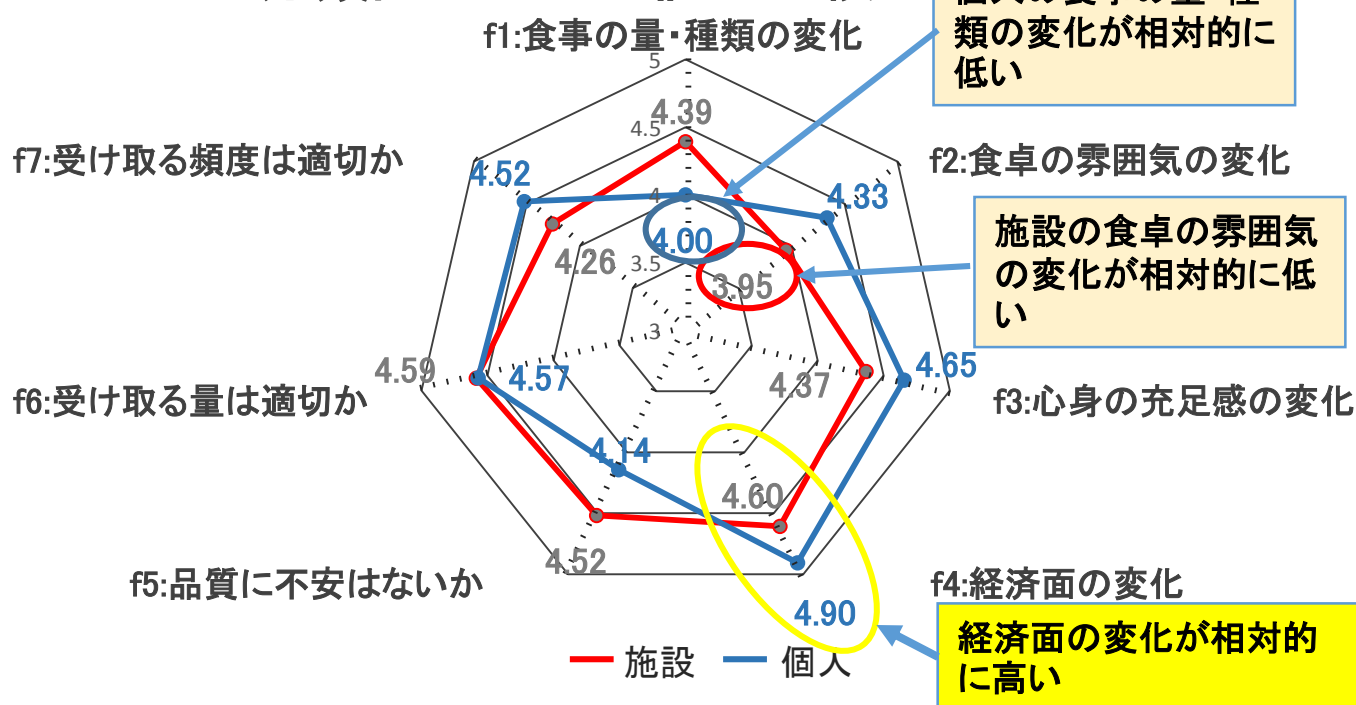
5-2 福祉貢献度評価(QOL評価)

QOL(Quality of Life)

- 人間らしく満足して生活しているかを評価する概念

全体が基準値3を大きく上回り、FBKの利用が好影響を与えている。

小分類因子のQOL値の比較



H27年度の受賞関係

3R活動推進賞受賞



ふくおか共助社会つ
くり表彰
(県知事賞)



成果のまとめ

食品取扱量

36トン(目標30トン)



食品提供企業数

24社(目標11社)



H27年度寄贈食品量と経済効

食品寄贈元 果	取扱量	経済効果(千円)		
		食品価値	廃棄物処理費	合計
定常: 2社 非定常22社 個人95件	36トン	21,600	1,080	22,680

食品価値600円/kg., 廃棄物処理費30円/kgとして計算

まとめ

本研究会の目的である以下の2つの事項について

(1) フードバンクの効果の見極め

本研究会により、フードバンク活動が食品ロス量削減に効果があることが明らかになるとともに、CO₂の削減、食品提供先の生活の質の向上など、**環境、福祉の両面で効果があることが明確となった。**

(2) 県内全域への普及の可能性

フードバンク活動については、フードバンク北九州ライフアゲインにより北九州地域から活動を開始したが、本研究会を通じて福岡地域にも拡大し、他の地域(大牟田市など)にもフードバンク活動が広がってきた。**福岡市では、平成27年4月にフードバンク福岡が立ち上がるなど、本研究会の活動により、県内全域へ確実に普及してゆくものと思われる。**

今後の予定

1. 新しく始まったフードバンク福岡と連携し、福岡県にフードバンク活動を広めてゆく。
2. 食品提供企業は増加したものの、県内食品関連企業の1割以下に留まっており、さらに提供企業を増やして行く。
また企業から食品の提供を受けるだけでなく、企業との連携を強化する。
3. 食品ロス削減学生プロジェクトと連携し、園児や児童を対象とした教育にも力を入れてゆく。
4. フードバンク活動を通じて「もったいない意識」を育て、食品ロス削減に貢献してゆく。